

學校教科以外の課程

三輪田高等女學校教頭 三輪田元道



學校教科以外の課程として、茶、花、琴等を女子に習はしむるが我國古來よりの風習なり。されど、これは多くの時間と費用とを要するが故に非經濟的なるのみならず、女子に取りて左程有益なりとも思はれざるなり。故に吾輩は家庭の教科として斯の如きものを殊更修めしむるの必要を見ず、今その大体に就きて左に説明すべし、

第一 茶に就きて

我國に於ける茶は種々の流儀ありて、これを習ふに甚だ困難なり。これを一の歴史上より見れば、差支なからんも、遊藝としては團体的方法の開けし今日の時勢には適せざるものと云ふべし。正式に茶道を一通り學ばんには、少なからざる費用と

時日とを要し、而もある一の流儀は他流に通せざるが故、兎角學びしことも一小部分の適用に過ぎざるなり。而してその飲用するに當りても、種々六ヶ敷方法ありて窮屈なること實に言はん方なし。かの茶室の如きも多くは四疊半の狭きものに限りたれば、一二の世拾人が集りて昔話にても爲すにはよからんも、交際頻繁なる今日の活社會に於て到底その用を爲すまじ。又衛生上より考ふるも、有害なること疑ふ可らざる事實なり。或は食後に於て少し位飲むは兎も角、食事以外特更これを用ゆるは餘り感心の出來ぬことなり。特に茶の師匠は弟子の飲み餘せし茶を悉く飲み了る法式なるを以て、それが爲め胃腸を害せる者尠ならず。斯の如き窮屈なる方法を取らずとも、西洋のコーヒの如く簡單に濟ますことを得るものあるにあらすや。

第二 花に就きて

花其ものは茶より贊成せざるを得ず。花は美的感情を起し花造の巧妙を知らしむる高尚なるものなり。されど、生花の法茶と等しく種々の流儀あ

りて、無用の時間と費用を要せざるを得ず元來生花は一種の美的快感をあたふれば事足りるものなれば、遠州とか池の坊とか六ヶ敷流儀を唱へずとも、天地人の三才、水おち、枝ぶりは斯の如き方法なるものぞと云へる總括的智識を以て知らしめなば、これを學ぶに早く且つ一般に普及することを得るならん。從來の如く一種の秘傳として教ふるは廢止し、團体的に、智識的に、綜合的に教授するを得るに至らば、興味ある國民の趣味とならん。

第三 琴に就きて、琴は長時間を練習に要するものなれども、比較的家庭團樂の上に興味を添ふるものにして、古より高尚なる樂器として用ひられたり。眞に琴を上手に奏しなば、聞く人をして天上界に住むが如き心地とならしめ、一種の家庭に於ける美的感情を起さしむる效あり。されど、琴そのものは一種の天才によるものにして、如何に練習するも上達せざる者あるは事實なり。これ寧ろ音樂一般の通病なり。何人にも學ばしむること能はざるもの

なり。然るに、中流以上の習慣の如くなりて、婦人に天性をも顧みずして習はしむるは當を得ざるものと言はざる可らず。琴に限らず音樂は巧に奏して始めて人をして美感を起さしむるものにして、下手な音樂程聞悪しきものはあるまじ、却つて聞かざらんことを欲するに至る。又一の缺點は、琴は多く娘時代に奏するものに殆んど限られ、婚姻後に於て餘り用ひざるにあり。一家を形成して團樂の上に使用してこそ價値はあるなれ、何ぞ娘時代にのみと限るの理あらんや。殊に琴には完全なる曲なきゆへ、學びし以外の歌曲は奏すること能はざるのみならず、學びし曲にても忘れしものは如何ともする能はざるに至る不便あり。西洋樂の如く完全なる曲を有する風琴の如きものは、今后追々勢力を得るに至り、日本樂の衰へざる可らざる亦數の然らしむる所ならん。

之れを要するに、右述べしものを以て趣味教育と云へる點より見れば可らんも、學校教科以外の教科として教ゆるは大に疑問ならんと信ず。それとも、花の如きを一齊教授として授け、從來の秘

傳的惡風を破りなば大に賛成すべきも、今の所にては到底首肯し能はざるなり。

現今學校に於ては、圖畫音樂等を授けて趣味教育を施しつゝあれば、花及び琴等を特更授けずとも、没趣味となる憂ひなきを以て、この問題に就ては吾輩不賛成を唱ふるものなり。

また、富豪の家などにては單に學校教科のみにては無趣味没風流なるかの感を抱か然なくば少くとも學校の教課以上に圓滿なる修養を興んと欲して尋常一年や二年の早きより、やれ音樂の、やれ踊りのと騷ぎ立て甚だしきに至つては茶の湯、生花裁縫迄も課程外に一定の時を定め特別の教師を依頼して行ふものあり。是は思はざるの甚しきものと云はざる可からず、斯くの如き兒女程學校に於ける成績は必ず中以下に降り居りて決して父母のやきまきする程には得進まぬものなり、人は夫々相當の個性を有するが故に其個性の許す範圍内に於てのみ相當に活動すれとも夫れ以外には最早如何程努力すとも堪え得可きにあらざるなり。今日の學校にては皆此點に注意して苟も兒童

の負擔に超ゆるが如きを爲さず然るに家庭に於て尙之以上に重荷を負はしめんとするは確かに兒女を賊ふものなりと云はざる可からず

若し又兒女をして多能ならしめんために是非とも種々の教科外課程を課する必要ありと云ふならば斯る父兄は第一に己れの思想は「兒女の識見や技能をして博く淺く修養せしめんと心掛けて居るものなり」と云ふことを確かに意識し従つて其兒女が學校に於ける成績が優等でなくても決して文句は云ひ得ざる可きなり何となれば己れの求むる所既に博く淺きものならば其決果が淺薄にして雜駁なるは當然の報ひなればなり。

要するに今日の學校は子弟に課するに必要にして可能なるもの、全部を課しつゝあれば是以上別に何等の附加を要するを見ず、吾人は學校時代の兒女に専ら學校を主として學校教課を主とせんことを勸むるものなり。

